# 熊谷市史編さん委員会・編集会議・専門部会　報告

## Ⅰ　熊谷市史編さん委員会報告

日時　平成二二年一〇月一三日(水)午後二時～
場所　熊谷市中央公民館　三の一会議室

【概要】
・委嘱状交付
(平成二二年七月七日より、市民団体代表の委員が、小林芳雄氏から山口良之氏〈いずれも、自治会連合会推薦〉に交替となった。)
・教育長あいさつ
・会議内容

〈報告〉

(1)　平成二〇年度第一回熊谷市史編さん委員会(平成二一年一〇月一日)以降に行われた熊谷市史編集会議の開催状況及び考古・古代・中世・近世・近代・現代・民俗の七つの専門部会会議開催状況・調査活動状況について事務局から報告をした。

専門部会活動状況について、考古専門部会長から資料編の執筆要領及び関連資料について補足説明がされた。

(2)事務局が行った基礎調査等について

古文書調査・民俗基礎調査・行政文書整理保存・中世石造物調査の状況及び熊谷市史研究第2号を刊行したことについて事務局から説明を行った。





〈議事〉

熊谷市史資料編2古代・中世の体裁について

中世専門部会の高橋専門委員から熊谷市史「資料編2古代・中世」の目次案及び体裁について提案説明を行なう。内容は、本編のほかに熊谷家文書、別府家文書、市内所在の中世文書、古代専門部会が調査した木簡等を掲載した写真集を別冊として、また熊谷家文書所収蓮生譲状を原寸で印刷した付録を添付し箱入りにしたいと説明する。

委員から「写真集を別冊にするのは良いが原価が高くなるのでは、市民が手に入れやすい価格設定を」と意見が出され、「仕様等を考え手に入りやすい価格設定ができるよう検討したい。」との答弁がなされた。

他に、「別冊・付録が付くことで購入してもらえる好材料になる。」「付加価値が付くので賛成である。」との意見が出され、市史編さん委員会の総意として写真集を別冊として刊行することが望ましいとの結論に至った。

（文責　山本　喜久治）

## Ⅱ　熊谷市史編集会議報告

日時　平成二二年二月二八日(日)午後二時～
場所　熊谷市立熊谷図書館　第二講座室

【概要】
1　経過報告
2　熊谷市史編集委員会設置規則の改正について
3　各専門部会進捗状況
・各専門部会より、進捗状況・課題点等を報告
4　事務局が行う基礎調査の活動状況
・古文書・民俗基礎調査、行政文書収集等の報告
5　平成二二年度の計画について
・仏像・仏画調査について、平成二二年度には、計画等を検討し、早く実施すべきとの意見が出た。
6　市史研究について
7　その他
・市史の意向を把握するため、市民アンケートを実施すべきとの意見が、全会一致の賛同を得た。平成二三年度の実施を目指すこととなった。

（文責　蛭間　健悟）

## Ⅲ　専門部会活動報告

### 一　考古専門部会

考古専門部会長　柿沼　幹夫

#### 一　考古専門部会の開催

第一回を平成二二年六月五日に開催し、資料編執筆要領案、今年度資料調査・執筆遺跡の検討を行った。昨年度から一部遺跡の執筆を試みているが、今年度も実際に執筆を進めながら執筆要領(案)を補正し確定を図っていくこととした。また、今年度から遺跡研究に欠かせない地形・地質の特別調査員として清水康守氏が特別調査員として加わることになり、その紹介を行った。

第二回は、今年度割り当ての市史研究第三号に掲載するために企画した座談会の開催と討論内容について協議した。

#### 二　座談会「荒川の流路と遺跡」の開催

北武蔵地方の遺跡の形成を考察する場合、荒川新扇状地の形成と流路の変遷、その時代を明らかにすることが重要な研究テーマとなってくる。清水康守氏が作成した地質調査を土台とする地形図に、各専門調査員が時代ごとに遺跡をマッピングして読み取れる情報について討論を行った。先行研究の水準が明らかになるとともに、新たな課題が浮き彫りされた有意義な座談会となった。今号に掲載されているので、ご批判・ご叱正をいただきたい。

#### 三　出土資料の実測調査

未報告資料や既報告でも修正が必要な資料について、実測調査を進めることとし、今年度は古墳出土資料について実測調査を行った。鎧塚古墳墓前祭祀出土品(須恵器、土師器)、女塚古墳出土埴輪、旧妻沼町古墳出土品等の資料化を図ることができた。

#### 四　その他

原稿・図版、遺物実測図、地図、写真資料等についてはデジタル化を進めている。

また、資料編では、三友国五郎氏や小澤国平氏等などに代表される熊谷市にまつわる考古学研究者を取り上げる予定であり、今後資料収集に努めてまいりたい。





### 二　古代専門部会

古代専門部会長　宮瀧　交二

本年度の古代専門部会は、前年度に引き続いて平成二三年度に予定されている『熊谷市史　資料編2　古代・中世』の原稿執筆に向けての調査・研究活動を中心に行った。本年度からは専門調査員に新たに一名(石津輝真氏)が加わって計四名となり、万全の体制となった。

本部会が調査・研究の対象としているのは、古代武蔵国の関係史料、とりわけ幡羅郡、大里郡、埼玉郡、男衾郡関係の史料であるが、昨年度から実施している『新編　埼玉県史』や昭和三八年刊行の『熊谷市史　前編』、そして旧妻沼町、旧大里町、旧江南町の各町史といった既に刊行されている自治体史からの関係資料の抽出作業を終えて、本年度の活動は、新たな関係史料の発見に向けての調査・研究作業に重点を移して実施した。武蔵国埼玉郡の出身で義真に次いで第二代天台座主となった円澄に関する史料に関しては、同時代のものは少なく、中世以降のものが多いことが判明したが、当初の予想を超えてかなりの数が存在することが明らかになった。また、武蔵国関係木簡(旧武蔵国内出土の木簡及び藤原京・平城京等から出土した武蔵国関係木簡)の調査では、五六点の存在を確認し、その内容の検討を終えた。この他、和歌をはじめとする文学作品や中央貴族の日記等に記された武蔵国についての調査は現在進行中である。いずれにしても、本年度末に予定している第三回専門部会会議において、『熊谷市史　資料編2　古代・中世』に掲載する史料を最終的に確定し、四月から各専門調査員は原稿執筆作業に取り掛かるものとしたい。

専門部会会議は、七月四日及び八月二九日に開催し、前掲のとおり本年度内にもう一回開催する予定である。また、一月一〇日には、かねてから本年度に予定していた中世専門部会との合同部会会議を開催し、来年度に差し迫った『熊谷市史　資料編2　古代・中世』の原稿執筆に際しての、パソコンを用いた原稿執筆にかかる入力フォーマットの確定など、具体的な調整作業を図った。

## 三　中世専門部会

中世専門部会長　高橋　修

### 1 中世専門部会の開催

今年度の専門部会は、第一回を五月二七日に開催し、中世の各専門調査員担当分野の選択史料について調整し、あわせて熊谷家の中世における本宗家と推定されている塩津熊谷家関係の掲載史料についても検討した。第二回は一〇月一三日に開き、作業日程や掲載史料についての再検討、付録・写真集を含めた資料編Ⅱの装丁等についての確認を行った。特に装丁については、箱入りとすることは、編さん委員会に諮って検討することになった。第三回は、一月一〇日に開催され、入力原稿の形式について、確認作業を行った。なお当日は、古代専門部会との合同部会も開かれ、両部会間で、収録史料や入力形式の調整を行った。

### 2 文献史料調査

① 長野家文書、阿保文書調査（埼玉県立文書館）

埼玉県立文書館に保管されている長野家文書、阿保文書を調査した。長野家文書は、熊谷の商家・長野家に伝わる文書で、今回は、天正期の成田氏長朱印状他四点を精査した。阿保文書は、阿保（児玉郡神川町）を本拠とした阿保氏に関する文書である。特に市内成田と関わる文保二年（一三一八）関東下知状と暦応三年（一三四〇）阿保光泰譲状とを精査した。

② 斎藤家文書調査（新潟県阿賀野市立吉田東伍記念館）

中世文書の斎藤家文書（巻子装、全一二通）、斎藤家略系譜（巻子装）、斎藤家が近代に史料採訪を行った記録等を調査した。

③ 上之村神社・一乗院・龍淵寺調査（いずれも市内上之）

上之村神社では、永禄元年（一五五八）成田長泰寄進の旧本殿扉を、一乗院では、文明六年（一四七四）の作とされる金剛界・胎蔵界曼荼羅を調査した。龍淵寺では、成田系図、成田氏分限簿写、成田記、大永五年（一五二五）の銘がある銅鈴の調査を行った。

④ 国立公文書館内閣文庫、国立国会図書館古典籍資料室調査

国立公文書館では鎌倉大草紙や武州文書等、国会図書館では武家事紀の、熊谷関係部分の精査を行った。





この他に、後閑文書（京都大学総合博物館）、宇津木文書（大阪城天守閣）、国分石川文書（東北歴史博物館）、秋田藩家蔵文書（秋田県公文書館）、熊谷家文書（京都歴史資料館）等の調査が行われ、さらに猿投神社文書（愛知県豊田市）等の調査が予定されている。

### 3 石造物調査

平成二一年度より、調査報告書『中世の石造物』を刊行するため、中世石造物担当の各委員が、市内に所在する中世石造物の悉皆調査を行っている。

本年上半期は、昨年に引き続き妻沼地域の調査を行い、一部を除いて調査が終了した。板碑二〇四点、五輪塔一四四点、宝篋印塔三二点、石仏九点、石幢三点、無縫塔一点の総計三九三点を確認することができた。そのうち、今回の調査で新たに確認できたものは一九四点、逆に確認できなくなったものが四三点であった。

六月一三日には、中世石造物調査会議を開き、昨年度の調査での課題点、本年度の調査計画等について審議した。

下半期には、奈良、中条、大幡地区及びその周辺についての調査を行った。大方の確認調査を終え、写真撮影、カードの作成、拓本の採取等を行っているところである。妻沼地域以上に、多くの中世石造物が新たに確認されている。

また、円光報恩寺からの連絡を受け、高さ二・五メートル余りの年不詳阿弥陀一尊板碑についての調査も行った。新たに確認されたもので、一三世紀半ばの造立と推定されている。

七月一一日、一八日、一九日には、立正大学との共同調査が行われた。立正大学文学部教授池上悟専門調査員を指導者として、立正大学の学生の手によって、妻沼小島医王寺、妻沼小島共同墓地、ちのしお教育資料センターの調査が行われた。

## 四　近世専門部会

**近世専門部会長　北村　行遠**

近世部会では、平成二二年の主要な活動として、平成二一年度第二回部会、平成二二年度第一回部会を開催した。平成二二年度はあと一回の部会を予定している。また、平成二二年には現地での史料所在調査もおこなった。以下、部会の内容について簡単ではあるが、まとめておきたい。

### 平成二二年の主要な活動

**平成二一年度第二回近世部会（平成二二年二月一八日）**

・古文書調査について

市史編さん室より史料の所在確認・調査状況の報告をうける。調査終了の文書群のうち、上中条の常光院文書をはじめとした五件の内容などについて報告がなされた。また、調査継続中の文書群には、上之の小鮒昌雄家文書、新堀新田の根岸勇家文書、川原明戸の飯田恒文家文書、冑山の根岸友憲家文書、新堀の中村定弘家文書、妻沼の歓喜院文書などがあり、新たに借用した文書群としては、筑波の柳沢辰夫家文書、俵瀬の常見善治家文書、小泉の田所常行家文書、平戸の藤井八重子家文書などがあるとして、それぞれの状態・内容の説明をうけた。専門調査員からは四方寺の吉田康久家文書の進捗状況について質問をし、膨大な史料群のため、五年間で調査を終了させる計画であるとの回答がなされた。このほかにも文書目録を作成する際にデータベースソフトの導入についての可能性については、当面は表計算ソフトのエクセルで作業をすすめるとの回答があった。

事務局から調査した文書群全体の所在情報として「史料所在情報」の一覧表が配付されたが、専門調査員から大字順に並べ替えて史料の有無の確認が可能な作表の要望をした。あわせて事務局から、今後とも調査対象地域が広範囲になるとともに、これまでの調査地域自体に偏りがみられるので、効率的な調査に切り替えられないか、あるいは事務局でおこなう所在調査のほかに近世専門部会でも調査協力ができないかとの打診がなされた。部会から、市史編さん室で所在情報を再整理していただき、今年度中に対応する旨の回答がなされた。





・くまがや古文書学習・研究会について

市史編さん室が依頼している古文書の筆耕作業についての説明をうけ、近世部会からも筆耕希望する古文書の提示を依頼されたが、いまのところ特に緊急を要する史料は無いので、これまで通りの対応で作業をすすめてもらうことをお願いした。

**第一回近世部会（平成二二年一〇月五日）**

・古文書調査について

市史編さん室より史料の所在確認・調査状況の報告をうける。調査終了の文書群のうち、上之の小鮒昌雄文書をはじめとした一九件などの説明があった。また、現在調査中の史料群には平戸の藤井八重子家文書をはじめ一一件あり、本石の竹井輝彦家を中心に史料整理を進めているとの報告をうけた。このほかに、新たに借用した古文書には、川原明戸の明道寺文書をはじめ一一件などの説明がなされた。

・熊谷・妻沼地域における古文書所在確認調査結果について

市史編さん室より昨年度末におこなった専門調査員による所在確認調査の結果報告があった。調査は平成二二年三月二七（土）、二八日（日）の二日間おこなわれ、主に宿場町であった熊谷駅周辺と妻沼の歓喜院周辺を調査対象地として、可能な限り旧家を訪問した。不在の家も多く見られたが、後日調査の必要な家も数軒見うけられた。ただし、今回の調査では大量の古文書を有する家は特に見あたらなかった。

・林金吾家文書について

市史編さん室より歓喜院の建築に関わる史料として宮町の林金吾家文書の報告があった。別編「聖天堂の建築編」のため写真撮影がおこなわれており、近世部会においても必要不可欠な史料となるため写真データの提供をうけた。

・今後の所在確認調査について

昨年度同様に専門調査員による所在確認調査の必要性の有無について検討がなされたが、編さん室により作成された「市内古文書情報」をもとにして、調査が必要と思われる地域を検討して、次回の近世部会までに調査対象地域を決めることとした。また、市内にとどまらず、県外とくに国文学研究資料館などの公共機関に収蔵される古文書についても調査の必要があるとの意見がなされ、今後の検討課題とした。（以上）

## 五　近代専門部会

近代専門部会長　村田　安穂

### 平成二一年度第三回近代・現代合同専門部会

（平成二二年三月一三日）

平成二一年度に実施した熊谷市北部地域の巡見に引続き、現代部会と合同で熊谷市西部・南部地域の巡見を行なった。（現代専門部会報告参照）

資料作成・案内・解説は現代専門部会高橋信之専門調査員が担当した。

### 平成二二年度第一回近代専門部会

（平成二二年八月一日）

平成二二年度活動計画について検討し、つぎに事務局が収集している古文書・写真等の調査の報告と、また近代史料の所在について説明を受けた。また具体的な調査開始に向けて専門調査員の担当分野について決めたが、現代専門部会との整合性については今後の検討課題とした。

新聞記事については調査カードを作成せずにデジタル入力し、一般史料についてはカードを作成し使用することとした。今後資料情報の共有化について、事務局に情報を集中し、必要に応じて事務局から各委員にメールで配信しては、との意見が出た。

会議終了後、妻沼展示館収蔵庫内の文書収納状況を一覧した。

### 平成二二年度第二回近代専門部会

（平成二二年一〇月二四日）

平成二四年度から本格的な調査が開始となるので、調査・資料収集開始に向けての活動計画について、行政文書、諸家文書、産業・商業・交通・新聞雑誌等史資料の収集方針をめぐって具体的な意見が出され討議がなされた。つぎに事務局から文書調査の進捗状況の報告がなされ、また今後の新史料発掘のための情報収集について話し合った。

会議終了後、片倉シルク記念館に赴き飯島一氏（熊谷学講師・元埼玉県繭検定所長）のご説明により見学した。





## 六　現代専門部会

現代専門部会長　黒須　茂

### 平成二一年度第四回現代部会（平成二二年一月二四日）

資料編6～8「近代・現代」の現代の章節構成について各専門調査員から担当する分野ごとに試案を提示し説明を行なった。ただし、具体的な相互検討は今後の史料調査・収集の進展に応じて行なうこととした。

また、近代部会と合同で実施の予定となっている熊谷市西部・南部地域の巡見について三月一三日に実施することとし、巡見場所・コース等の確認を行なった。最終的には近代部会及び事務局と打合せを行い、最終案を確定させることとした。

会議終了後、広報誌を中心に史料の閲覧・調査を行なった。

### 平成二一年度第五回現代部会（近代部会との合同部会）

熊谷市西部・南部地域巡検　（平成二二年三月一三日）

(1) 巡検箇所・地域（主要部分）

①籠原駅・開設七〇周年記念碑　②埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所（旧玉井農業試験場）・野村盛久顕彰碑　③航空自衛隊熊谷基地　④御稜威ヶ原工業団地　⑤湧水と三尻の集落、三ヶ尻観音山・龍泉寺　⑥川原明戸の江南サイホン遺構　⑦六堰頭首工　⑧埼玉県循環器呼吸器病センター（旧小原療養所）　⑨埼玉県農林総合研究センター畜産研究所・森林緑化研究所（旧畜産試験場）　⑩文殊寺　⑪立正大学熊谷キャンパス　⑫冑山根岸家長屋門・祖霊社　⑬熊谷堤・万平公園

(2) 日程

午前一〇時　ＪＲ籠原駅北口集合・出発

午後五時　熊谷駅南口で解散

(3) 巡検資料（高橋委員作成）

＊巡検地の概要解説　＊小麥埼玉二七號並育成者野村盛久君顕彰記念碑々文　＊荒川新扇状地の微地形図　＊熊谷市周辺の地形図（明治二六年、昭和四年、昭和二七年）　＊大里用水関係資料　＊埼玉縣大里用水路改良事業竣工記念碑々文　＊三ヶ尻及び熊谷駅周辺航空写真（昭和二二年　米軍撮影）　＊巡検地付近二万五千分の一地形図

(4) 巡見概要

当日は天候に恵まれ、予定した巡見場所を全て回ることができ、熊谷市西部・南部地域の歴史的施設・地区・旧跡等について委員の認識を深めることができた。

なお、巡見の実施日が日曜日であったため、施設によっては休業日であったものの快く受け入れて解説をしていただいたことに感謝し、この誌面をお借りしてお礼を申し上げます。

**平成二二年度第一回現代部会**（平成二二年五月九日）

平成二二年度の活動方針については、旧妻沼町の資料編が旧熊谷市の資料編よりも先に刊行される計画であるので、当面は調査の対象を妻沼町編に集中させることとした。新聞の調査については近代専門部会の分野にも亘り、統一的かつ効率的に史料収集を行なうため、また相互利用や公開などについて近代専門部会・現代専門部会での協議・調整が望まれるとした。

会議終了後、広報誌の調査など各担当の作業を行った。

市内巡見の様子（埼玉県農林総合研究センター・水田農業研究所）





## 七　民俗専門部会

民俗専門部会長　飯塚　好

**第一回民俗専門部会**

日時　平成二二年六月二〇日(日)　午後二時より

場所　熊谷図書館第二会議室

内容　平成二二年度調査計画、口頭伝承など担当が決まっていない分野について検討。事務局が行う基礎調査についても意見交換した。

現地調査

調査地は、原島、新島、池上、下川上、円光、箱田、星川、佐谷田、久下、久下(新川)、村岡、万吉などで、年中行事を中心に、社会生活についても調査内容含めた。

大塚松岡清家　迎え盆行事